

「場面緘黙研究」【執筆規定】 2023.06.01 版

1. 投稿論文原稿の書式

- 1) 研究会ホームページからダウンロードできる「論文原稿テンプレート」(Word、A4判)を用いて作成する。
- 2) 図表は本文中に画像ファイル等により、掲載原稿を想定して当該箇所に貼り付ける。

2. 原稿の構成と規定枚数

- 1) 原稿の基本的構成は、論文種別ごとに、原則として以下のとおりとする。但し、査読・編集の過程で、編集委員長が著者に変更を求めることがある。

原著論文：問題と目的、方法、結果、考察、付記、引用文献を基本とする。

事例研究：原著論文と同様の構成を原則とする。または以下のとおり、または以下に準じた構成。

問題と目的、事例の概要、方法(又は支援方法)、結果(又は支援経過)、考察、付記、引用文献

資料：原著論文と同様の構成を原則とする。

展望：原著論文と同様の構成を原則とする。

総説：著者が必要とした構成。

実践報告：著者が必要とした構成。

招待論文・特集論文・書評論文・書評等：編集委員会が別に指示する。

- 2) 投稿論文原稿は、論文原稿テンプレートにより12ページ以内とする。但し、書評は2ページ以内とする。

3. 論文原稿の文体と見出し

- 1) 論文原稿は特定用語の外国語表記以外は日本語とし、句読点は「、」「。」(全角)とする。
- 2) 引用文献以外の外国人名や日本語訳が定着していない学術用語などは原則とし英語表記とする。日本語訳が定着している場合は、日本語表記とする。
- 3) 見出しは、大見出し(I・II・III...)、中見出し(1・2・3...)、小見出し(1)・2)・3)...)とし、項目を示す場合は①・②・③...とする。大見出しと中見出しはMSゴシック体とする。大見出しの上は1行空ける。

4. 倫理的配慮

- 1) 人および動物が対象である研究は、倫理的配慮の内容について本文中に記載する。なお、明記する際には施設や個人が特定されないよう留意する。
- 2) 大学等の所属機関の規定により研究倫理審査委員会等で審査を受けた場合は、1)に加えて承認番号等を記載する。

- 3) 事例研究等の個人を対象にした論文については、研究参加者より発表（オンライン雑誌による論文公開）の承諾を書面で得ることはもとより、論文の記載に必要な加工を施すこととする。
- 4) 「研究倫理に関する誓約書」に示した事項をすべて遵守すること。
- 5) 他学会の倫理規定（例えば「日本心理学会倫理規定」等）も参考にすること。

5. 図表

- 1) 図表は図 1、表 1 など通し番号をつけ、本文の該当箇所に掲載原稿を想定した大きさに挿入する。
- 2) 図は、JPG, TIFF, GIF, JPEG などの鮮明な画像ファイルで挿入する。
- 3) 表は、標準的なフォント（MS 明朝, MS ゴシック, Times New Roman, Century など）を用いて、Word の表作成または Excel での作成を推奨する。
- 4) 表は、原則として横罫線のみで表示する。
- 5) 数字は、半角表示とする。

6. 引用文献

- 1) 本文中での文献の引用は、著者名（姓）と発行年を記載する。本文中に翻訳書を引用する場合は、原著者名（姓）と原著発行年を記載する。著者名（和名）は初出の場合には全員の姓を記載し、2 回目以降については 2 名の場合「●・●」、3 名以上の場合「●ら」と記載する。著者名（外国語表記）の場合も同様とし、2 回目以降については 2 名の場合「● and ●」（但し、（ ）内に記載する場合は「● & ●」とする）、3 名以上の場合「● et al.」とする。詳細は本誌既刊号掲載論文を参照のこと。
- 2) 引用文献欄では、著者名のアルファベット順に記載する。共著者は全員を記載する。
- 3) 引用文献欄の記載方法は以下の様式とする。

<雑誌掲載論文>

・著者名（発行年）論文タイトル. 掲載雑誌名, 巻（号）, 最初のページ–最後のページ.

（例）

日本太郎・東京花江（2022）場面緘黙のある小学生の支援に関する調査. 場面緘黙研究, 10(1), 10-19.

<単行本>

・著者名（発行年）書名（必要な場合は版数）. 出版社名, 出版地（外国語図書のみ）.

（例）

日本太郎（2022）場面緘黙研究（第 2 版）. ○○出版.

（編著の章等の引用の場合）

・著者名（発行年）当該箇所のタイトル. 編者名, 書名（必要な場合は版数）. 出版社名, 出版地（外国語図書のみ）, 当該箇所の最初のページ - 最後のページ.

(例)

東京花江 (2022) 場面緘黙のある幼児の心理. 日本太郎編, 場面緘黙に関する心理的支援. ○○出版, 20-30.

<翻訳書>

- ・原著者名 (原著発行年) 原著の書名. 出版社, 出版地. 翻訳者氏名 (訳本発行年) 翻訳書のタイトル. 出版社名.

(例)

Suzuki, I. (2020) Selective mutism. ○○Press, New York. 日本太郎監訳 (2022) 場面緘黙. ○○出版.

(編著の章等の引用の場合)

- ・当該箇所の原著者名 (原著発行年) 当該箇所のタイトル. In 原编者名, 原著の書名. 出版社, 出版地, 該当の最初のページ - 最後のページ. 翻訳者氏名 (訳本発行年) 翻訳書の書名. 出版社名, 該当の最初のページ - 最後のページ.

(例)

Matsui, H. (2020) Stimulus fading. In Sato, A., ed., Selective mutism. ○○Press, New York, 111-121. 日本太郎監訳 (2022) 場面緘黙. ○○出版, 120-132.

<Web ページなど、オンラインのコンテンツ>

- ・著者もしくはサイト名: タイトル, Retrieved from: <http://> (閲覧日: ○年○月○日)

7. 付記

研究協力者への謝辞のほか、当該研究に関して受けた研究助成がある場合、または著者以外で当該研究の遂行や論文作成に貢献した者がいる場合は、「付記」としてその内容を記載する。また、投稿論文の要旨を学術大会等にて発表している場合、投稿論文が修士論文・博士論文等に修正加筆をしたものである場合、および研究助成による研究報告書に修正加筆をしたものである場合は、「付記」にその旨記載する。